

総合的な学習の時間に育成された資質・能力が どのように社会で生かされているか

増田有希（尼崎市立園和小学校）・平櫛武（キタイ設計株式会社）
小林一木（ベネッセコーポレーション）・高田周祐（姫路市立広峰小学校）
三浦隆志（岡山県立林野高等学校）・黒上晴夫（関西大学）
泰山裕（鳴門教育大学）

概要：本研究は、総合的な学習の時間（以下、総合学習）で育まれた資質・能力が、学校卒業後の実社会でどのように生かされているのかを明らかにすることを目的としている。総合学習では、実社会、実生活と関連した課題を解決する中で、生きる力を育むことが目標とされ、新学習指導要領においても探究的に学ぶことの重要性が指摘されている。本研究では、総合学習の経験がある社会人を対象にアンケート調査を実施し、総合学習の学びをどう認識し、それが社会人になってからどのように生かされていると感じているのかについて整理した。

キーワード：資質・能力の育成、総合学習、探究的な学び

1 はじめに

新学習指導要領が告示され資質・能力の3つの視点から各教科等の学習指導要領が記述された。習得・活用・探究という学習プロセスがより重視され、高等学校において「総合的な探究の時間」が示されたことにも、そのねらいが表れている。

総合学習は、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを旨とするものである」とされ、まさに新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指した時間であると捉えることができる。

総合学習によって育った能力についての調査では、村川ほか（2015）や七里（2018）などがある。これらの調査ではある特定の学校の卒業生を対象とした追跡調査の結果、コミュニケーション能力や問題解決能力など、総合学習で培った能力が卒業後も生かされていることが報告されている。

先行研究ではどちらも附属学校を対象にしており、総合学習に熱心に取り組んだ学校を対象に研究が進められているが、それらの成果はこの学校でも同様に得られるかについては明らかにされていない。

そこで本研究では、学校を限定せずに調査を実施し、より幅広く総合学習の成果について明

らかにすることを目的とする。

2 研究の方法

（1）調査方法、対象、調査時期

方法：アンケート記入による調査

対象：総合学習を経験している年代に Web 上でアンケートの協力依頼を行った

時期：2018年8月7日～8月15日

アンケートの質問項目は、以下の通りである。

【1～7：選択式 8：記述式】

1. 今年度で何歳になりますか。
2. 現在のご職業について教えてください。
3. 「総合学習」の学習経験について選択してください。
4. あなたが「総合学習」によって身に付いたと思うものを選択してください。（複数回答可）
5. 今、あなたが生きていく上で大切だと思うものを選択してください。（複数回答可）
6. あなたが、今、活用できていると思うものを選択してください。（複数回答可）
7. 「総合学習」での学びは、今のあなたの生活やお仕事等に影響していると思いますか。
8. 総合のどのような学習によって、どのように影響していると思いますか。問7で生きていないと思わないと答えた人は、総合について覚えていることをお書きください。

なお、問4、5、6で尋ねている「力」とは、「小学校学習指導要領第2節 目標の趣旨 2 総合学習で育成することを目指す資質・能力」を参照し、回答者に伝わりやすいと思われる表現に書き替えたもので、以下の6つを選択肢として準備した。

- ①身の周りの問題・課題を見つける力
- ②問題を解決するのに情報を整理・分析する力
- ③集めた情報を整理・分析する力
- ④知ったことをまとめたり表現したりする力
- ⑤他者と一緒に、力を合わせて課題を解決しようとする力
- ⑥自分が知ったことや得たものを生かして、社会に参画しようとする態度

(2) 分析方法

選択式の問いは、回答数や割合を出し、記述式の問いは、テキストマイニングにより回答を分類し、その頻度を分析した。

また問7において、肯定的に回答した群と否定的に回答した群に分け、他のアンケート項目とのクロス集計を行い、その特徴を分析した。

3 結果と考察

アンケートの協力者を募集した結果、10代～30代前半の計227名の回答を収集することができた。それぞれの設問の結果について考察を進めていく。(属性は以下のとおり)

表1 アンケート回答者の属性(年齢別)

	計
01. 10代	7 3.1%
02. 20～25歳	105 46.3%
03. 26～30歳	83 36.6%
04. 31歳以上	32 14.1%
合計	227 100.0%

表2 アンケート回答者の属性(職業別)

	計
01. 就業している(雇用形態を問わない)	176 77.5%
02. 学生	40 17.6%
03. 専業主婦/主夫	3 1.3%
無回答	8 3.5%
合計	227 100.0%

<学習経験の有無について>

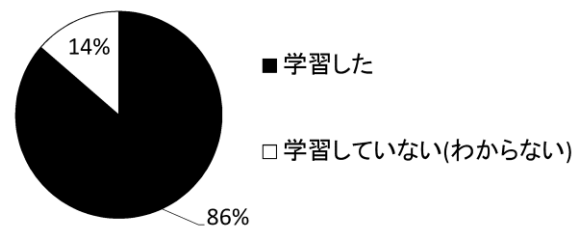


図1 小・中・高いずれか1回でも総合学習を経験した人と、未経験の人の人数割合

学習していないと回答した人のうち、ほとんどは31歳以上であり、総合学習が設置されて間もなく高校を卒業したためだと考えられる。

なお、小・中・高別の割合としては、「学習した」、「学習していない」、「わからない」、「通学していない(高校のみ)」の選択肢のうち、「学習した」と答えた人は、小学校76%、中学校66%、高校41%だった。

これらの結果から、校種により差異があるものの、アンケート回答者の9割近くが総合学習の経験者であるため、本研究の調査対象とすることは妥当であると言える。

<学びの影響について>

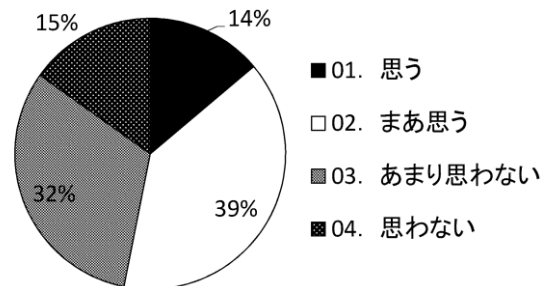


図2 「総合」での学びが、今の生活や仕事等に影響していると思いますか。(問7)

総合学習での学びが今の自分に生かしていると思っている人は約半数に留まっている。

9割近くの人が総合学習を経験しているという結果と照らし合わせると、生かしている実感がない要因は経験の有無より、当時の学習内容によるものが大きいと考えられる。

そこで、「生かしていると思う、まあ思う」「あまり思わない、思わない」の分類ごとに「総合学習による生活や仕事への影響」の内容を捉え、

後ほど分析する。

<総合学習で身に付いた資質・能力について>

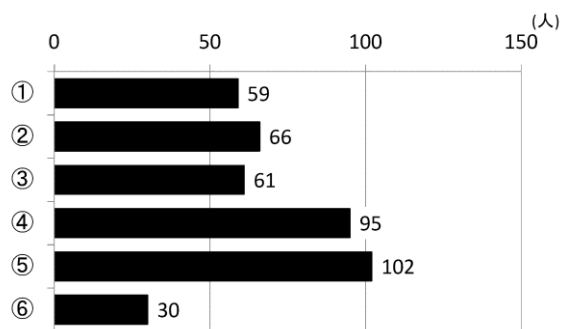


図3 「総合の時間」の学習によって身に付いたと思うものを選択してください。(問4)

総合学習によって、⑤「他者と一緒に、力を合わせて課題を解決しようとする力」が身に付いたと感じている人が102人ともっとも多く、④「知ったことをまとめたり表現したりする力」が身に付いたと感じている人が95名と多い。

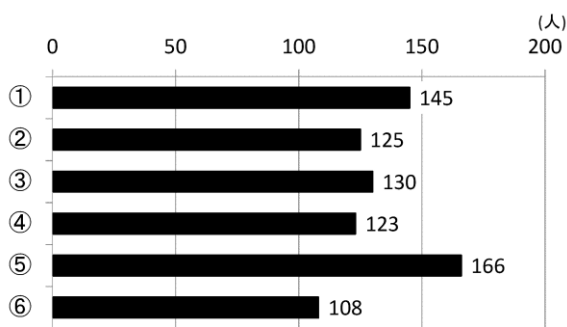


図4 あなたが生きていく上で大切だと思うものを選択してください。(問5)

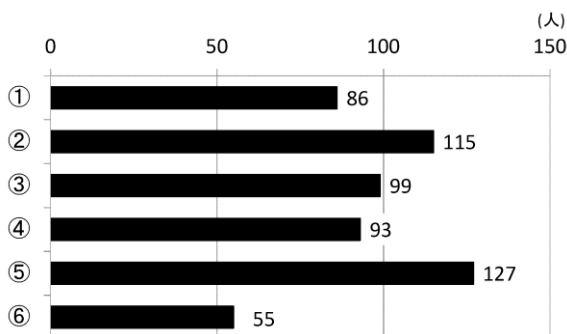


図5 あなたが、今活用できていると思うものを選択してください。(問6)

一方、あなたが生きていく上で大切だと思う資質・能力では、⑤「他者と一緒に、力を合わせて課題を解決しようとする力」が166人とも

っとも多く、次に①「身の周りの問題・課題を見つける力」が145人と多い。

あなたが活用できている資質・能力については、⑤「他者と一緒に、力を合わせて課題を解決しようとする力」が127人となりもっとも多く、次に②「問題を解決するのに情報を整理・分析する力」が115人となり多い。

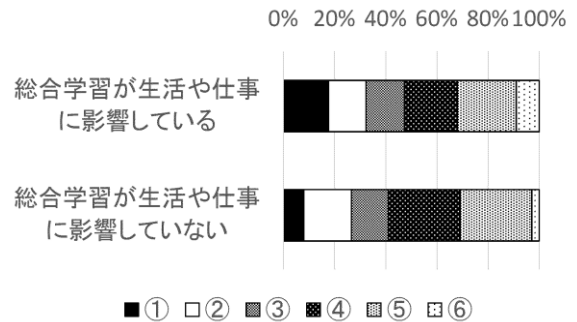


図6 総合学習の生活や仕事への影響の有無と身に付いた資質・能力の関係(問7×問4)

総合学習によって身に付いたと感じる力について比較してみたところ、①「身の回りの問題・課題を見つける力」、⑥「自分が知ったことや得たものを生かして、社会に参画しようとする態度」の項目で大きな差異が出ていた。総合学習が社会に影響していると回答した人は、そうでない人に比べてこの2つの力を選択した人の割合が倍以上である。これは、総合学習でどのように学習してきたかが影響していると推測する。詳しくは、テキストマイニングの結果を参照して後述する。

また、以下のデータにも着目したい。

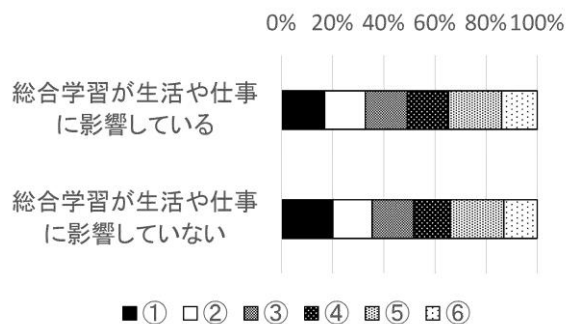


図7 総合学習の生活や仕事への影響の有無と生きていく上で大切な資質・能力の関係(問7×問5)

図6と異なり、この結果は肯定的な群・否定的な群に関わらず、差異は小さいことがわかる。

<総合学習の今の生活への影響(問8)>

当時の総合学習がどのように影響しているか、集めた記述式の回答をテキストマイニングで分析した。総合学習が今の自分に影響していると肯定的に答えた群と否定的に答えた群とを分け、名詞と動詞で頻出したワードを集計した結果は以下の通りとなった。



※ユーザーローカル テキストマイニングツールによる分析

(<http://textmining.userlocal.jp/>)

肯定的に回答した群は、「課題」「他者」「解決」「考える」といった、探究的な学びに関わるワードが頻出していることがわかる。具体的には、「課題を解決する」「他者と協力する」「他者に伝える」「地域と関わる」等の記述が目立った。

一方、否定的に回答した群は、それらのワードが少なく、「記憶」「先生」「覚える」などのワードが頻出していることがわかる。具体的には、「経験はしたが何を学んだか記憶にない」「目的が感じられない」「やらされている」等の記述が目立った。これは、どのような総合学習が効果的であるのかを示していると考えられる。

<以上を踏まえての考察>

これらの結果から、社会で生きる総合学習をした人は、子どもの頃、課題意識を持ち、他者と関わりながら探究的に学んだと思われる。

一方、社会で生きる総合学習をしていない人は、総合学習において課題意識を持たず、他者との関わりが少ない学習をしてきたと思われる。

しかし、図7のように、両者とも「身の回りの問題・課題を見つける力」と「自分が知ったことや得たものを生かして、社会に参画する態度」は、今、生きていく上で大切だと感じていることから、これらの資質・能力を育むことは重要課題であろう。教育現場で総合学習の指導をする教師は、これらの資質・能力を身に付け

ることを視点においてカリキュラム・マネジメントをする必要があると考えられる。

4 まとめ

アンケート結果の分析から「身の回りの問題・課題を見つける力」、及び「自分の知ったことや得たものを生かして社会に参画しようとする態度」は総合学習によって、一定の成果が得られることが明らかになった。

しかし、ただ総合学習を履修するのではなく、どのような学習を行うかが重要である。分析の結果から、課題設定や、地域や他者と関わる事がポイントではないかと推測される。

5 今後の課題

総合学習が学習指導要領に位置付けられて20年経ち、当時総合学習で学んだ初めての世代が社会人となっている今、総合学習の効果を検証することは意義深い。

本研究では、アンケート調査により227名の回答を得られたが、ヒヤリング等を実施しておらず、具体的な場面の想定が不十分であった。

今後は、より詳細な分析を行い、総合学習が社会に出てからどのように影響しているかをさらに検証していくことで、より効果的な総合学習の実践に生かしていきたい。

<参考文献>

- 文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 総合的な学習の時間編
- 文部科学省(2018) 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編
- (http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407196_21.pdf 2018.08.18アクセス)
- 位田智也(2014)「小学校における総合学習の長期的な学習効果～岡山市立平福小学校における授業実践を事例に～」関西大学総合情報学部黒上ゼミ卒業研究2014
- 村川雅弘、鎌田明美(2015)「総合的な学習の教育効果に関する追跡調査—鳴門教育大学附属中学校「未来総合科」卒業生及び元教員に対する面接調査を中心に—」鳴門教育大学研究紀要, 第30巻, pp.72-89
- 七里広志(2018)「BIWAKO TIME: 調査研究型の総合学習が卒業後に与える成果に関する卒業生への世代別追跡調査」pp.1-16.